

## 第7回 会長の時間 基本的教育と識字率向上月間について H28.9.1

早いもので、今日から9月がスタートしました。ロータリーでは、9月は、「基本的教育と識字率向上月間」ですが、日本では「ロータリーの友月間」も同じ9月になっています。さて今日は、RI 特別月間としての基本的教育と識字率向上についてお話しします。識字率の向上は1986年以来、国際ロータリーの強調事項であり、ロータリー財団の6つの重点事項の中にも入っておりますが、この運動はユネスコ協会と連携して行っています。

地域の識字水準がその地域の生活水準に直結するとの観点から、「世界中で識字能力の大切さを強調する」とか「ロータリー独自の識字率向上プログラムを開発する」など、ロータリアンの意識を向上する月間です。2015年現在の世界の人口は、73億2478万人で、10年後の2025年には80億8341万人に達すると予想されています。しかし、ユネスコの推計によりますと、世界にはいまだ7億8100万人の読み書きのできない方がおられ、特に女性は世界の非識字率人口の2/3を占めているといわれています。世界183カ国の中で識字率90%以上の国は104カ国ある一方、70%に満たない国が33カ国、50%にも満たない国が12カ国もあります。

識字とは、辞書で調べますと文字を読み書きし理解できる能力のことを指します。文字に限らずさまざまな情報の読み書きや理解能力に言及する際には、日本語ではリテラシーという表現が利用されます。

また、識字率とは、一定の地域で「15歳以上の人口に対し、日常生活に支障なく文字の読み書きのできる人の割合」を表します。

さて、日本では統計上識字率は99.8%であり、残りの0.2%は知的障害者、言語障害者といわれておりますが、補助器具による識字を行えば、実質は100%と考えられます。そのため日本では、識字率向上に関する関心が極めて低いのが現状です。しかしながら世界の実態を見ると、ロータリアンとして決して無関心でおられないテーマです。読み書きや計算能力が社会に与える恩恵は、議論の余地がありません。識字率が低い事は真実を知る機会を奪うことにつながり、人々を病気や貧困という深刻かつ不幸な状況に追い込んでしまいます。世界中で非識字者が多い一番の理由は、教育の問題です。特に開発途上国では、貧困のため教科書も行き渡らず、制服や文具を買うことも学校へ通うことも出来ません。社会生活を送るうえで必要な知識や技能を身につけることが、経済の発展や平和の維持に必要ですが、貧困や紛争などの国の情勢により十分な教育を受けることができません。教育には時間が掛かり、すぐには効果が出ない

ため、基本的な人権であるにもかかわらず後回しにされています。国際ロータリーは、世界の地域社会でテクノロジー、教員研修、職業研修チーム、給食、廉価な教科書を提供する教育プロジェクトを支援しており、地域社会が基本的教育と識字率、教育機会における男女の差、成人の識字教育を自力で改善できるよう、その能力を高めることを目標としています。

私は、識字とは“人間が人間らしく”生きて行くための基本的条件の一つでありその中でも最も重視すべき要件だと思っています。そして識字率を上げることが、最終的には、ポリオ撲滅の手助けとなると考えます。今月は、世界における識字率の問題を再認識するとともに、識字率向上に関して、私たちロータリアンの意識を深めたいと思います。

本日は識字率向上についてお話ししました。